

しろね施設きゅうり持続農業協議会（新潟県新潟市）

R5補正
R6当初

33

背景・課題

新潟市南区（旧白根市鷺巻・大郷地区）は、きゅうりの県内出荷額の約4割を占める産地である。

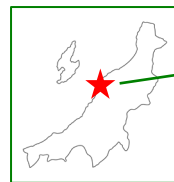
古くからの産地のため、化学農薬の連用による防除効果の低減や肥料の蓄積等による収量・品質の低下が散見され、その解決及びグリーンな栽培体系による産地ブランドの確立を目指している。

成果目標

- ナノバブル水を使用した防除技術や、JAオリジナルの混合堆肥複合肥料使用による施肥体系の検証を行い、化学農薬使用回数20%減・農薬散布量10%減。
- 産地面積6.2haのうち、令和11年度までにグリーンな栽培体系の取組面積を（現状）2.0ha→4.0haとする。

主な取組内容

- 土壌調査や病虫害発生予察調査など従来の対策を強化
- 環境モニタリングを導入し、ハウス内環境と病虫害発生の関連を検証
- 化学肥料と化学農薬を節減するため「抵抗性品種」を導入
- 地域内畜産法人との連携によるペレット肥料の導入
- 新たな仕立て（吊り下げ栽培）の試験実証



新潟市

構 成 員

新潟県、新潟市、JA新潟かがやき、資材メーカー、肥料メーカー、農薬メーカー、農業者

品 目

きゅうり（施設）



アグリログ



園芸参入塾

塾長のモニタリングデータを見ながら栽培のノウハウを学び、産地の若手を育成

普及に向けた取組

- モニタリングデータの検証による良好なハウス内環境や、試験実証により得られた化学肥料・農薬を減じる体系を、より数値化した形で「栽培マニュアル」に反映し、グリーンな栽培体系を産地全体へ広める。
- 先進地視察を随時行い、得られた知見を産地で実証するなど、新たな取組を継続する。

問い合わせ先

しろね施設きゅうり持続農業協議会 事務局

JA新潟かがやき・しろね北アグリセンターTEL：025-362-1362

BS栽培検証コンソーシアム（新潟県長岡市）

R5補正
R6当初

34

背景・課題

近年、長岡市において、えだまめの^{ちやっさよう}着莢不良等の高温障害の影響が顕著となっており、高温に対応できる生産技術の確立が急務である。また、肥料高騰下において施肥量低減技術の確立が求められている。

成果目標

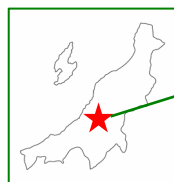
- バイオスティミュラント資材※の活用による
 - ① 収量・品質向上
 - ② 化学肥料使用量の減少 慣行より5～10%減
 - ③ 作業時間の削減 慣行より5～10%減
- 令和13年度までにグリーンな栽培体系の取組面積を1haとする。

※バイオスティミュラント資材とは

植物の免疫システムの活性化により、植物の生理作用（高温や乾燥環境ストレス緩和及び栄養吸収効率など）を向上させる資材

主な取組内容

- バイオスティミュラント資材の活用による減肥栽培の実証
- バイオスティミュラント資材の活用による施肥工数・時間の削減実証



長岡市

構 成 員

えちご中越農業協同組合、（株）AGRI SMILE、新潟県長岡地域振興局、新潟県三条地域振興局

品 目

えだまめ



『ぐんぐん伸びる根』

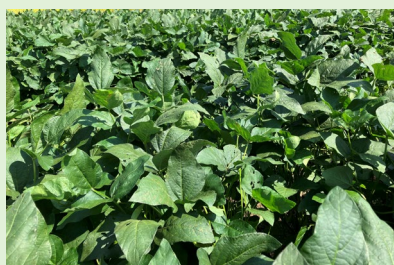
ビール酵母複合資材



- 成分**
- βグルカン（細胞壁成分）
 - リン/カリウム源
- 性状**
- 液状
- 用法**
- 1,000倍（葉面散布）200ml/10a
 - 2週間に1回

- バイオスティミュラント資材
ビール酵母複合資材

- 資材のほ場への散布
農薬（肥料）と混用して散布
7月1回、8月2回



- 試験ほ場の様子
7月・8月に生育調査を実施

普及に向けた取組

- ・ 複数年度の栽培実証により、品質・収量、農薬・肥料の散布回数削減効果を検証する。
- ・ 土壌分析、作物体の元素解析により、資材が土壌や作物体に及ぼす効果を検証する。
- ・ 試験により得られた知見を栽培マニュアルに組み入れ、地域への普及を図る。

問い合わせ先

BS栽培検証コンソーシアム

（JAえちご中越 営農経済部 園芸特産課 TEL:0258-33-3616）

新発田市有機農業産地づくり推進協議会（新潟県新発田市）

R5補正
R6当初

35

背景・課題

新発田市は、「住みよいまち日本一健康田園文化都市・しばた」を将来都市像に掲げるとともに、コロナ禍による米価下落対策等の観点から、有機JAS認証による農業振興に加え、「オーガニック」をキーワードに、商工業や観光業との連携によるブランドストーリーの構築を目指している。

成果目標と達成状況

- 有機JAS認証面積
(R4) 0.5ha → (R5) 9.5ha → (R10) 14.5ha
- 有機JAS認証者数
(R4) 2名 → (R5) 5名 → (R10) 8名
- 有機JAS認証米輸出量
(R4) 1.8トン → (R5) 10.8トン → (R10) 12トン



新発田市

構 成 員

農業者、JA北新潟、集出荷業者、加工業者、消費者、長岡技術科学大学、新潟県、新発田市

品 目

水稻

取組の成果

生産

- 育苗講習会や除草作業確認会などの技術指導会を実施した他、新発田市有機農業事例集を作成し、栽培技術の向上を図った。
- 堆肥のペレット化に向け、ペレット化適合テストを実施。
- 除草作業軽減を目指し、大学との連携により水田除草ロボットの開発を進めている。

流通

- 協議会と集出荷業者の連携により有機米の海外輸出（10.8トン）を行った。

消費

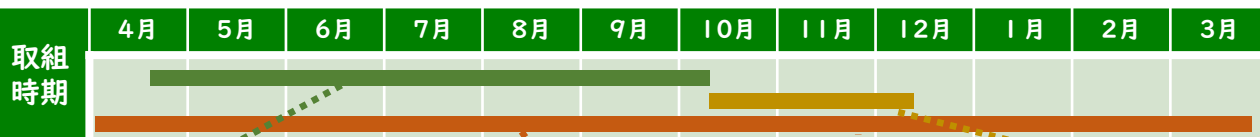
- 輸出業者との連携により、海外における販路の拡大を図った。
- 新発田産有機米を使用したおにぎりをハワイで販売。



育苗講習会の様子



ペレット堆肥試作品



除草作業の省力化を目指す



首都圏の高校生を対象にスタディーツーリズムを実施



新発田産有機米を使用したおにぎりの販売（ハワイ）



集出荷業者と連携した有機米の輸出

普及に向けた取組

- 除草作業の省力化、収量の向上に向け、除草用ロボットの実用化を早急に進めるとともに、栽培技術等をまとめたマニュアルの活用や研修会の開催等により、新規生産者の確保及び除草対策を含めた栽培技術の向上を図る。
- 担い手等の課題を抱える中山間地域を中心に取組を進め、成功事例を他の地域等へと広げる。
- 観光業との連携により、スタディーツーリズムなどによる誘客を促進し、新発田産有機農業の取組をPRする。

問い合わせ先

新発田市農林水産課生産振興係

TEL : 0254-33-3108

富山県（富山県富山市、魚津市、射水市）

R5 補正
R6 当初

36

背景・課題

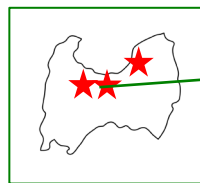
近年、富山県では省力栽培が可能で庭先で高単価販売が期待できるぶどう栽培に取り組む経営体が増えてきている。「シャインマスカット」等消費者ニーズの高い品種では露地栽培の事例が多く、降水量が多い本県では病害が発生しやすいため、農薬防除回数の増加と果実品質の低下が課題となっている。

成果目標

- ・露地栽培のぶどう「シャインマスカット」において比較的安価な簡易雨除け（トンネルメッシュ）被覆による減農薬（殺菌剤）栽培体系の確立を図る。
- ・作業省力化に向け簡易雨除け被覆による無袋栽培の実用性について検証する。

主な取組内容

○県と関係機関で構成する「ぶどう生産振興プロジェクトチーム」が連携し、実証生産者の協力のもと、簡易雨除け（トンネルメッシュ）被覆による、減農薬（殺菌剤）栽培や省力化に資する無袋栽培の実用性の実証と成績とりまとめを進めている。



富山市、魚津市、射水市

構 成 員

県農業技術課広域普及指導センター、県農産食品課、新川・富山・高岡農林振興センター、果樹研究センター、全農とやま・J A、ぶどう生産農業者

品 目

ぶどう（生食用・露地栽培）

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
取組時期				巡回による実証進捗状況確認								
				簡易雨除け（トンネルメッシュ）被覆								
			農薬防除		農薬防除・袋掛け作業省略		収穫					



●「ぶどう生産振興プロジェクトチーム」巡回にて実証進捗状況を確認

簡易雨除け（トンネルメッシュ）被覆



- 簡易雨除け被覆により病害の発生が抑制
- 一部農薬防除、袋掛け作業の省略により作業時間が削減

無袋栽培



普及に向けた取組

事業の結果を踏まえ、導入効果や活用事例をまとめた「ぶどう（生食用・露地栽培）のグリーンな防除技術マニュアル（仮）」を作成し、県内でのグリーンな栽培体系の普及を図る。省力的で環境にやさしい技術の早期確立が求められているため、当事業により技術確立が図られれば、広く普及することが期待できる。

問い合わせ先

富山県農林水産部農業技術課広域普及指導センター
TEL 076-429-5042

富山県（富山県富山市、砺波市、南砺市）

R5 補正
R6 当初

37

背景・課題

米消費量が減少するなか、富山県では水田農業の収益力向上を目指し、機械化体系が確立している「たまねぎ」の導入・拡大を図ることが急務となっている。

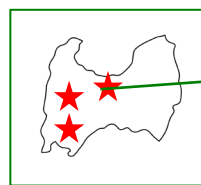
しかし、土壌病害である「べと病」の発生拡大が問題となっており、防除の省力化と化学農薬のみに依存しない防除対策の確立が強く求められている。

成果目標

- ・次世代土壌病害診断技術（ヘソディム）によるリスク診断と同診断による低リスクほ場の作付け、夏季湛水処理の耕種的防除技術による土壌菌密度の低減及び薬剤防除回数の削減
- ・ドローン防除による防除作業時間及び自動水栓利用による夏期湛水管理作業時間の削減

主な取組内容

- 夏季湛水により、タマネギべと病菌の検出率が1/4～1/6に減少することが判明。
- ドローンを活用した防除については、慣行の防除方法と比べ、40%程度省力化が図られることが判明。



富山市、砺波市、南砺市

構 成 員

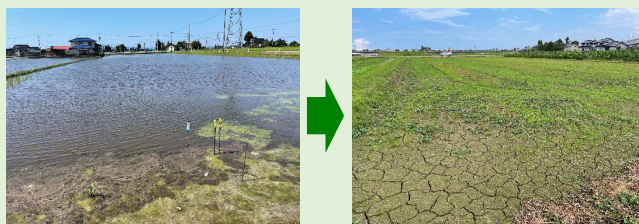
県農業技術課広域普及指導センター、富山・砺波農林振興センター、園芸研究所、全農とやま・JA、たまねぎ生産農業者

品 目

たまねぎ（露地栽培）

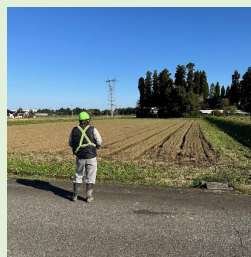
取組時期	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	融雪後管理 （追肥・除草・防除）			収穫			育苗	定植	防除			

①夏季湛水



●べと病の菌密度が減少

②ドローン防除



●防除作業の省力化が可能

普及に向けた取組

事業の結果を踏まえ、導入効果や活用事例をまとめた「たまねぎのグリーンな防除技術マニュアル（仮）」を作成し、県内でのグリーンな栽培体系の普及を図る。

生産者からは、省力的で環境にやさしい技術の早期確立が求められているため、当事業により技術確立が図られれば、広く普及することが期待できる。

問い合わせ先

富山県農林水産部農業技術課広域普及指導センター
TEL 076-429-5042

白山ナチュラアグリ推進協議会（石川県白山市）

R5補正
R6当初

38

背景・課題

白山市鶴来地区では、稲作地帯で化学肥料を主体とした従来の水稻栽培主体に行われているが、消費者の安心安全への関心の高まりから有機農産物需要が高まっている。

水稻の有機栽培を行うに当たって、水田内の除草が大きな課題となることから、水田除草機や屑大豆を活用した除草技術を検証するとともに、有機質肥料を活用した、水稻の有機栽培体系を検証する。

また、直売所等で有機農業の取組を周知し、理解促進を図る。

成果目標

- 水田除草機を使用した機械除草と屑大豆散布（還元処理）による、化学農薬使用量の削減・除草作業時間の削減
- 有機質肥料の活用による化学肥料使用量の削減

主な取組内容

- 化学農薬を使用せず、水田除草機で2回（計1h/10a）除草した結果、収穫まで（収穫に問題ない程度に）抑草でき、手作業と比較して作業時間が75%程度削減
- 6～7月頃の深水管理・屑大豆散布による還元処理の結果、雑草発生量を80%程度抑制
- 全量有機質肥料を施用した結果、慣行とほぼ同収量となったが、倒伏や高タンパク質が懸念されることから、施肥量や時期について検討が必要
- 11月にJA直売所にて消費者への周知活動を実施



白山市

構 成 員

白山農業協同組合、石川県石川農林総合事務所、白山市農業振興課、有限会社アグリサポート白山、農事組合法人北辰農産、農事組合法人井ログリーンワークス

（参加：株式会社井関農機関西中部北陸支店、株式会社オーレック）

品 目

水稻



●水田除草機

・6月中旬、6月下旬、の2回、計1h/10a作業



●ほ場での作業風景及び実演講習会の様子



●屑大豆散布

・6～7月頃に50kg/10a散布と深水管理することで水田水を還元化させ、雑草発生量を抑制



●屑大豆散布の様子

普及に向けた取組

この結果を踏まえ、産地戦略・栽培マニュアルを策定し、関心のある生産者への技術紹介により技術普及を図る。また、地元消費者に対し環境保全型農業（有機農業）に関する周知活動を行い、理解促進を図る。

問い合わせ先

白山農業協同組合
TEL:076-272-3333

越前市有機農業産地づくり推進協議会（福井県越前市）

R5補正
R6当初

39

背景・課題

越前市は、有機農業を含めた県特別栽培による水稻の作付面積が、県全体の約4割を占める地域。

一方、有機農業従事者の高齢化による担い手不足が深刻化しているため、有機農業の規模拡大や効率化を目指すスマート技術の導入、また付加価値の高い有機農産物やその加工品の販路の開拓を推進し、新たな担い手を確保する必要がある。

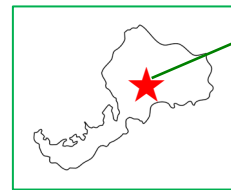
成果目標と達成状況

※有機水稻のみを対象

○栽培面積（R4）109ha → （R5）135ha → （R10）170ha

○販売数量（R4）239t → （R5）288t → （R10）372t

○取組者数（R4）31人 → （R5）34人 → （R10）40人



越前市

構 成 員

福井県、越前市、

J A 福井県、J A 越前たけふ

品 目

水稻

取組の成果

生産

- 有機農業の新規取組者に対する先進的農家による指導及び有機栽培技術のマニュアル作成のため、実証ほ場においてデータ収集を行った。

（実証ほ場面積：1.2ha）

- 実証ほ場で収集したデータを活用し生育ステージの画像判断を可能にするため、追肥適期を特定する実証実験を行った。

流通

- 有機農産物やその加工品の開発、パッケージデザイン等を支援し、ターゲットを絞って都市圏等において市場調査及び販路開拓を行った。

消費

- コウノトリ呼び戻す農法米（県特裁の認証区分①：栽培期間中の農薬、化学肥料の不使用）を市内全小中学校に提供（40俵）。

さらに、農林水産省の「みえるらべる」をコウノトリ呼び戻す農法米に貼付、消費者に訴求した。

農林水産省
みえるらべる

特裁米を提供した際の献立

軽井沢発地市庭の売り場
（長野県軽井沢町）

普及に向けた取組

- 先進的農事組合法人のノウハウを横展開するため、令和5年度に作成した栽培手引書の精度を上げる。
- 民間企業と連携し、収量や食味の向上や作業の省力化、効率的な作業管理につなげるため、スマート技術の実証実験を継続的に実施し、安定した収量や作業の効率化を図る。
- 国内外の食や環境に意識が高い層に向け、YouTube等のSNSを活用した情報発信。
- 「みえるらべる」等による差別化を図る。

問い合わせ先

福井県越前市環境農林部農政課
TEL:0778-22-3009

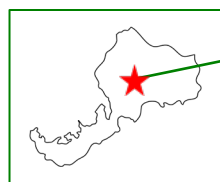
越前たけふ農業協同組合（福井県越前市、南越前町）

R5補正
R6当初

40

背景・課題

当組合管内では「コウノトリ呼び戻す農法部会」を中心に水稻の有機栽培に取り組んできた。近年、部会生産者の高齢化が進み、栽培面積の減少が危惧されている中、高温耐性のある「いちほまれ」の有機栽培体系を構築するにあたり、高齢者や新規参入者が取り組みやすい作業体系とすることが求められている。



越前市、南越前町

構 成 員

越前たけふ農業協同組合
コウノトリ呼び戻す農法部会

品 目

水稻

成果目標

- 水田除草機による化学農薬（除草剤）の不使用
- 有機質肥料の施用による化学肥料の不使用
- 乗用管理機による追肥、溝切り作業時間の削減
- 「いちほまれ」による栽培マニュアル、産地戦略の策定

主な取組内容

- 平坦地及び中山間地で、水田除草機による除草効果や水稻に及ぼす影響を検証
- 乗用管理機を活用し、有機肥料による穂肥及び溝切作業の軽労化を検証



水田除草機による除草



乗用管理機による穂肥の施用



乗用管理機による溝切り

普及に向けた取組

越前たけふ農業協同組合のホームページに栽培マニュアル及び産地戦略を策定・掲載し、地域農業者への技術等の普及を図る。

問い合わせ先

越前たけふ農業協同組合営農販売課
TEL：0778-21-2608